



学校だより

横浜市立大鳥小学校

おおとり

平成30年11月6日 発行

11月号

学校教育目標

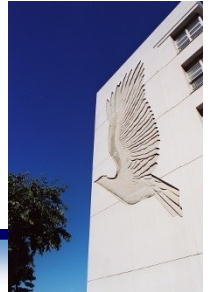
〒231-0806 中区本牧町1-251
学校長 山本 浩之 TEL 621-7700

はばたく子

◆やさしい子

◆たくましい子

◆かしこい子



勝負とどのように付き合っていくか

副校長 正木 俊行

2年後のオリンピック、パラリンピックを前に、日本のスポーツ界では今年様々な不祥事が起きてしまいました。このような不祥事が起きてしまうのは、プロ、アマに関わらず勝負にこだわり、勝つことのみ最終的な価値を見出そうとするからでしょうか？

実は子どもも非常に勝負にこだわります。休み時間のドッジボールでさえ、その勝敗を巡って大喧嘩になることがあるくらいです。自分が今まで担任していた子の中にもそういった負けず嫌いな子がいました。体育の授業のラインサッカーで負けて、地面に突っ伏して、こぶしで地面をたたきながら泣いていた子。ハンドベースボールで負けて、チームメイトを罵っていた子。リレーで負けてバトンを地面に叩きつけて折った子。どの子にもその子に応じた指導をしました。



11/3に決勝戦が行われたフレンドッジカップ。たてわりクラスで協力し合って各ミッションに取り組み、見事勝ち抜いてきました。

勝ちにこだわって活動に取り組むことはとても素晴らしいことだし、活動を持続する原動力になります。また、勝つことを目指すことで、目的意識をしっかりともち、技能や作戦を向上させようという意欲が高まります。チームプレーであれば、その上団結力も高まり、勝利を勝ち取った時の、充実感、達成感は大変なものになります。

しかし、勝者は最大でも半分です。対戦相手が増えていけば、勝者の割合はどんどん減っていきます。BSFも3色で戦っているのに、本校では、必ず半分以上の3分の2の児童が悔しい思いをしています。こうした現状を踏まえれば、我々は、勝敗のあるゲームや対戦をした時には、必ず負けた時の対応を考えておかなければならないと思います。これは、「負けてもいいや。」という気持ちで勝負に挑むのとは違います。絶対に勝ちたいと思って勝負に取り組むけれど、負けてしまった時にはそれを真摯に受け入れる心構えが必要だということです。 (次頁へ)

(前頁より)

学校教育の中では、勝つために倫理的、道徳的な感性を捨て去るのではなく、倫理観、道徳観、相手への尊敬や感謝の気持ちを育てるために「勝負」を利用していききたいものです。

そして勝負を取り入れることで、様々な活動を通して楽しさやワクワクを味わうことができます。私はここには、偶然性がどうしても必要だと思います。勝負をしても必ず負けるとわかっていたら、とてもつまらないです。でも、必ず勝つと決まっているゲームも意外とつまらないです。努力や作戦、工夫、練習は、勝利に近づくものではあるけれども、勝利を約束するものではないということです。

私は、小学校4年生まで団地暮らしでした。団地では、様々な年齢の子と一緒に遊ぶことが多くありました。そんな時は、ハンディをつけたり、特別ルールを設けたりして、誰もが勝利への希望をもって取り組めるゲームのルールをいつも考えていました。その時のいろいろのハンディや特別ルールを作った経験は、子どもたちと一緒に遊ぶ時のルール作りや教師になってからの体育学習のルール作りにとっても役立ちました。

勝利を目指してゲームや対戦をすることはとても楽しいことです。負けたら悔しいです。当然です。でも負けてもまた、勝利への希望と期待をもってゲームや対戦に取り組みたいと思えるような心を学校では育てていきたいです。

11月11日(日)には、磯子スポーツセンターで「横浜オープンジュニア綱引き大会」が開催されます。本校の特別綱引きクラブの児童も参加します。勿論、参加児童全員が勝利を目指して日々練習に取り組む、大会当日も完全勝利を目指しているはずですが、そこに確定している勝利はありません。ただ自分たちの勝利を信じて、ひた向きに努力を積み重ねていくのみです。



11/19の横浜オープンジュニア綱引き大会へ向けて練習に励む綱引きクラブの選手たち。

私が確信していることは、例えどんな結果になったとしても、彼らが綱引きを通して今まで得てきたもの、大会当日に得るものは、間違いなくかけがえのない人生の財産であるということです。

参加児童一人ひとりの大鳥魂が発揮できるように応援よろしくお願い致します。